

## 活動報告

## ERINA 出前授業の実施報告

## ～新潟県の日中友好交流および直江津港・柏崎港の対中貿易～

ERINA 経済交流部経済交流推進員  
蔡聖錫

5月28日(金)、上越市立柿崎中学校で「新潟県の日中友好交流および直江津港・柏崎港の対中貿易」をテーマに、1年生の2クラスの生徒に授業を行った。ERINA は2006年から北東アジア地域に対する長年の知見を活かして、新潟県内の中学・高校を対象に当地域に対する理解教育とグローバル意識の育成を目的に、出前授業を実施してきた。本稿では、改めてERINA 出前授業の概要、今回の実施状況、当事業の意義などについて触れる。

## 1. 出前授業の概要

ERINA 出前授業は、新潟県内の中学・高校の総合学習の時間などで、北東アジア各国・地域の現状やそれらの地域と新潟との交流の過去・現在・未来、さらにグローバルやローカルの視点から、将来を担う中・高校生と、これからの新潟と北東アジアの交流および国際交流について考えていく。

授業の内容については、国・地域や手法等を相談の上、調整して決めていく。

## 2. 今回の実施内容

今回は「新潟県での中国との人的交流、および直江津港や柏崎港での日中の輸出入に関する紹介」という依頼だったため、「新潟県における中国との友好交流」、「上越市における中国との友好交流」、

「直江津港・柏崎港の対中貿易」の3つで構成した。以下、それぞれの構成について簡単に紹介する。

## (1) 新潟県における中国との友好交流について

新潟県と友好交流したことがある中国の自治体、新潟県と友好交流提携を結んでいる黒龍江省間の交流事業の詳細、事例紹介などを行った。事例紹介では筆者が担当した経済交流の仕事、例えば海外商談会への参加、国際会議への参加、現地視察などを紹介した。

また、新潟県での国際交流の一つとし

て、ERINA が担当してきた新潟県の大学・大学院に在学中の外国人留学生の就職合同説明会・国際人材フェアの開催や、留学生による企業視察バスツアーの紹介なども行った。

## (2) 上越市における中国との友好交流について

上越市の国際友好都市を紹介し、そのうち上越市と友好交流提携を結んでいる中国吉林省延辺朝鮮族自治州琿春市<sup>1</sup>について詳しく説明した。琿春市出身の筆者は、個人的な経験を交えながら、琿春市の街の様子、図們江、中朝口三国

資料 琿春市の街風景



出所: ERINA

<sup>1</sup> 琿春市は、1996年(平成8年)に産業・文化・スポーツ等幅広い分野での交流を図るため、上越市と「国際経済・文化交流関係についての協定書」に調印した(上越市HPより)。

国境などについて紹介した。冒頭のあいさつで「上越市の友好都市・琿春市からまいりました。」と自己紹介した。生徒達に興味を持ってもらえたと思う。

### (3) 直江津港・柏崎港の対中貿易について

新潟県の主要港湾の紹介、直江津港と柏崎港のそれぞれの主な輸出入相手国、および主要貿易品目(輸出・輸入)について、両港を比較しながら紹介した。次に、直江津港の航路、利便性、ふ頭の役割について紹介し、最後に、上越市にとっての直江津港の重要性と、港湾活性化の意義について説明した。普段、あまり地元の港を意識する機会がないなか、グローバルや国際交流の視点で、もう一度、港について関心を持つきっかけになったのではないかと考える。

当日は、上越市役所からの参加があり、直江津港を利用した佐渡旅行のパンフレットを配布していただいた。中学生にとっては港を身近に感じることができたのではないと思う。上越市には、協力していただいたことに感謝している。

### 3. まとめ

今回の授業では、「友好交流」、「経済交流」などの概念や、北東アジアの地名など聞き慣れない言葉が多く、地図や写真、動画などを活用して、直感的に理解してもらえるような構成とした。また、生徒にも授業用の世界地図を用いて地名を調べてもらった。これらの工夫が功を奏したのか、興味を持って聞いてもらった。

生徒に短時間で膨大な情報を伝えることは難しく、事前に担任教諭との連携が必要だと感じた。

### 4. 終わりに

北東アジアは日本海沿岸地域である新潟県にとって重要な地域である。近年、政治問題や領土問題などが原因で交流が思ったほど進まない部分もあるが、一方で、各国の経済成長中心地域から離れ、人口減少や地方創生など共通の課題を多く有する地域もある。ERINA 出前授業を通じて各国との相互理解が深まり、環

日本海地域への思いを共有し、将来、生徒達が地域を担う人材となることを期待する。

最後に、前述のとおり、筆者は琿春市の出身で、幼い頃よく家族で図們江の河口にある防川(ぼうせん)へ遊びに行った。当時は90年代の半ばで、ちょうど国連開発機関(UNDP)が図們江地域開発計画を発表した頃でもあり、地域全体が日本との貿易や、経済発展の話で盛り上がっていた。「図們江が注ぐあの海を日本海と言う。その海の向こうには日本がある。」と遠くに見える日本海を指しながら話す大人の姿が印象的だった。これが、筆者が初めて「日本」という国を意識する出来事であった。今振り返ってみれば、この頃の体験が、大学卒業後に日本に来るきっかけとなったのかもしれない。今回の出前授業で「日本海の向こうには私の生まれ故郷である琿春があります。」と説明した時、この記憶が蘇った。このような体験が今後もこの地域で引き継がれることを期待する。

写真 出前授業の様子

